



福崎町立
柳田國男・松岡家記念館
〒679-2204
神崎郡福崎町西田原
1038の12
電話：0790-22-1000

松岡静雄の

『播磨風土記物語』

今年、風土記編さん命令1300年目の節目の年になります。
記念館では、昨年、井上通泰の『播磨国風土記新考』を取り上げた特別展を行いました。



を刊行し、通泰に寄贈しています。
通泰は、執筆を終えた昭和5年7月14日に初めて本を読み、同じ『播磨国風土記』を研究したものであるが、その中で争う必要がない著書であつたと記しています。

現在、当館所蔵の井上通泰の『播磨国風土記新考』の直筆原稿は、姫路文学館で開催されている「むかしむかしはりまのおはなし展」風土記1300年」で展示されています。

『記念館新聞』52号でお伝えしたとおり、大正14年から昭和5年にかけて、通泰は『播磨国風土記新考』の原稿を執筆しています。

実は、執筆の最中であつた昭和2年10月13日に弟である松岡静雄が『播磨風土記物語』

所を地誌類や播磨出身者から得た情報を用いて丁寧に考察しました。一方、静雄は「自序」で古い言葉の意義を解積することが目的ではないと記しています。そして、伝説、神、人、地誌、住民、風俗という章立てとなつて立っていること

から『播磨国風土記』の内容を、幅広い知識を活かして独自に解釈しているといえます。

すなわち、それぞれの研究方法で『播磨国風土記』に取り組み、その研究成果を遺したのです。

節分の鬼

二月三日は節分の日です。節分といえば、「鬼は外」という唱え言ともにも豆まきをしながら、鬼を追いかける様子を楽しんでいられるのではな

いでしょうか。福崎町高岡の應聖寺では、節分の日に鬼追いと護摩焚きが一度に行われる「探燈大護摩鬼舞法要」を行っています。

行者らによる「厄よけじゃ」のはやしに合わせ、薬師如来の化身「山ノ神」と赤鬼、青鬼が護摩壇の前で舞を披露します。



柳田國男・松岡家記念館

☆☆入館案内☆☆

- ☆☆開館時間
- 9時～16時30分
(入館は16時まで)
- ☆☆休館日
- 月曜、祝日の翌日
- 12月28日～1月4日
- ☆☆入館料
- 無料



「探燈大護摩鬼舞法要」
(平成18年2月)

そして、護摩焚きが行われ、残り火がくすぶる丸太の上をはだして歩く火渡りもあり、一年の息災を祈ります。
皆さんは節分の日をどのように過ごされるでしょうか。鬼に注目してみてください。

故郷七十年を

読む

『故郷七十年』でも鬼が登場しています。それは福崎町東田原にある妙徳山神積寺の鬼追式の鬼です。

名作著書紹介

「妙徳山に一月の十六日か十五日に「鬼追い」という年中行事があつた。子供にとっては、その行事がいちばん大きい興奮で、今でもよく憶えている。「おん、そこじゃい。めん、そこじゃい」というものだから、鬼におんどめんどがあるのかしらんと思つたりした」と國男は記しています。

神積寺の鬼追式(追儼)は、福崎町の指定重要文化財です。本尊の薬師如来の使者「山の神」と家来の「青鬼」「赤鬼」が邪気を追いかう所作を行います。

鎌倉時代より始められたと伝えられており、現在は成人の日に行われています。



前記しましたように、姫路文学館に井上通泰の『播磨国風土記新考』の原稿を貸し出してあります。「むかしむかしはりまのおはなし展」風土記1300年」は、2月28日まで開催されます。ぜひ、足をお運びください。

また、当館では3月2日から31日にかけて企画展を開催いたします。この企画展では、「春」をテーマとした民俗行事や、20年ぶりに播磨国総社で開催される「三ツ山大祭」を紹介いたします。さらに、松岡映丘の画稿展も行います。

そして、ご迷惑をおかけしております記念館周辺の整備工事ですが、スロープが設置され、美装舗装がされました。日々、変化していく記念館にお越しください。

